

2022 年も 2 か月が過ぎようとし、春を待ちわびる日々ですが、北陸、東北を中心に異常な大雪や寒波に襲われています。

皆さん、いかがお過ごしですか？

北陸特有の暗い雪雲に覆われる日が続くと、気持ちがひきこもり気味になってしまいますが、少し晴れ間が覗くと、“待ってました！”とばかりにシジュウカラの「チュピー、チュピー、チュピー、チュピー・・・」と甲高い囀りが聞こえます。やはり季節は春に変わりつつあります。

この半年ほどの「**Branch**(ブランチ)」の様子をご報告申し上げます。

-地域の中で-

昨年の 4 月から、私は町内会の班長を引き受けており、今年度は、月に 1 回定例会、回覧等の仕事がありました。例年に比べいろいろな行事が少なくなっていたのですが、やはり雪国です。秋の頃になると、降雪時の町内の対応を取りまとめなくてははいけませんでした。

丁度この冬は、大雪に備えて、人力だけではどうしようもない時に、機械除雪の導入を進めるかどうかが問題になっていました。機械除雪とは、業者に頼んで除雪をしてもらう事なのですが、助成金制度はあるものの、それほど安い費用ではありません。住民の負担金も除雪一回につき、三千円ぐらいになるでしょう。どのくらい降ったら、どこに頼むかの判断は班長がするとの事、町会の一人一人に意見を聞き取りまとめるのは、この町会に入ってまた 3 年目の私にとって、とても難しいことでした。雪が降る度に気持ちが重くなっていました。

そのような 1 月のある日のことです。

「家の前の雪かきをしておかないと、明日外出できなくなりそうだ。」とっていると、突然なにやら、ゴーという音がして慌てて外に飛び出しました。すると、家の前の坂道を、一人の男性が除雪機を押して歩いていました。坂を上った所にある町会の方で、市の助成金を利用して購入したとの事。



(お話し会)

その町会から一般道に出るにはこの道を通る必要があるのですが、今回、この道も除雪しているというのです。本当にびっくりしました。

町会長に、状況を伝え、このお礼をしたいのだが、どうすればよいのかと相談すると、「除雪ボランティアの方に謝礼をすることはできるけれど、ちょうど通り道やったから、やってくれたのだから、“あんやど”と言っておけばいいがじゃないか」との事。

謝礼をすることは、簡単かもしれませんがこちらは、知らず知らずのうちに、きちんとやってほしいと、相手に見返りを求めることになるのかもしれませんが。それは、その人の思いとは違ってくるのでしょうか。そこで住む人たちの暗黙の了解というものがあるのでしょうか。

ただ感謝して受け入れる事の方がかえって難しいことなのかもしれません。

このようなことを通して、ブランチが少しずつ、地域との関りが出来てきたようにも思います。



(お節作り)

—ブランチの報告—

コロナ禍の中、なかなか人が集まらない状況がありましたが、新しい年齢層の方が来ていただきました。

・ブランチの平日の夕食は私が作っているのですが、それに加えて、ある高齢の御夫婦の夕食を週1回作っています。年齢層が違ふとまたし好も違うのですが、今年は若い方とお節料理に挑戦しました。いろいろな年齢層の方と作り、食べる楽しみの場になればと思っています。

・ある財団の文庫支援を頂き、新しい絵本や本を選ぶ機会を頂きました。子供たちの心にどんな話を届けたいのかをまた考えさせられました。そして、12月初めに以前から考えていたことも文庫の読み聞かせ会を開きました。コロナ禍で、なかなか会うことが出来なくなった子供たち、久しぶりの再会に楽しむ子供たちの姿もあり、読み聞かせの後のスノードーム作りは大人たちも一緒に楽しみました。まん延防止等重点処置のために今は中止となっていますが、今後も、継続できたらと思っています。

・年末年始には数日ブランチで過ごして下さった方がいました。お正月は皆で過ごしたいという帰省できなかった学生さん。新年、金沢に用事があって立ち寄ってくれた方…。こんな利用も嬉しく思います。

・1月の初めの連休に、80歳後半の女性の方が宿泊されました。ご家族が、用事で自宅を留守にしなくてはいけなくなり、その数日間でしたが、若い頃の話もお聞きすることが出来、喜んで頂いたようで嬉しく思いました。

—いくつかの課題—

いろいろな方が集う中で、事故や緊急事態があった時の対応を考えておく必要に気付かされました。

・共に暮らすことで起こる事故や緊急事態に対する補償です。修理などの予備費としての備えをほとんどしていませんでした。判断には困難なこともあります。金銭的な保証を伴うものは特に責任を求められるケースもあるでしょう。

・災害時、緊急避難時に必要な複数人分の食料、日用品のストックの必要性を感じています。

すぐ出来る事出来ない事、多くあると思いますが、互いによく話し合っていきたいと思いません。

—コロナで変わる日々であっても—

新型コロナウイルスは、世界的な感染という事もあり、メディアからは大量の情報が流れ、感染者数は刻一刻と伝えられました。多くの国の様子も瞬時に伝わり、その悲惨さに大きな緊張感を持ちました。また、個人が多数に発信する事も多くなりました。リモートやSNSを通して、人と人の繋がり方が格段に変わったようにも思います。物理的な人と人の距離を取らないといけない今の時代に、これらのネットメディアはとても大切な道具でした。どちらにしても膨大な量の情報が私たちの生活の中に入ってきています。そしてそれらは、価値観も違い、人為的に操作する情報もあるのです。真実や正義が分からなくなっているように思います。

そのような時代だからこそ、個々人が互いに理解し、共感し、愛し受け入れられる、そんな人の心の有様を問い続ける日々の暮らしが、大切に思われるのですが。

一日も早く、マスクを取った(現実の)満面の笑みが見られますよう。

「貧しい者がかすめられ、乏しいものが嘆くゆえに、わたしは今立ち上がって、

彼らとその慕い求める安全な所に置こう」詩篇 12:5



ブランチ山科

松本